

私は、中部学院大学人間福祉学部4年生の李国軍と申します、中国の山東省からやって来ました。日本に留学して色々なことを学びましたが、一番印象に残ったこととして、日本のトイレのことについてお話をしたいと思います。

シンガーソングライターの植村花菜さんの「トイレの神様」という歌を聞いてから、世界一綺麗である日本のトイレに興味を持つようになりました。植村さんの歌った「トイレの神様」の歌詞には次のようなフレーズがあります。「おばあちゃんがこう言った、トイレにはそれはそれはキレイな女神様がいるんやで、だから毎日キレイにしたら、女神様みたいにべっぴんさんになれるんやで、その日からわたしはトイレをピカピカにし始めたベッピンさんに絶対になりたくて・・・」

この歌を聞いたあと頭に浮かんできたのが、「日本のトイレはなぜこんなにも綺麗か?」「日本人はなぜトイレを大切にするのか?」ということでした。日本人の皆さんは普通だと思っているかも知れませんが、中国から日本に来て驚いたことは、日本では、家庭のトイレだけでなく、公衆トイレまでも綺麗なことです。

日本のトイレの呼び方は、何種類もありますが、一般的には、「トイレ、お手洗い、化粧室」と呼びます。また、日本の禅寺では、トイレのことを「東司」(とうす)や雪隠(せっちん)という名前呼び、特別なところとして昔から大切に扱ってきたそうです。また、最近では11月10日を「トイレの日」とし、日本トイレ協会も設立されたそうですが、たぶん他の国では見られないことかも知れません。

また、兵庫県神戸市にある高校では、トイレ掃除を「訓育」の一環として利用しています。「最も汚れやすい場所を、最も清潔に保つことが大切である。」という考え方のもと、「心と精神」を鍛える教育を行っているそうです。トイレ掃除をする時には、汚れても大丈夫なように上半身は裸で、白い短パンに着替えて、手で便器を持ち、顔を近づけ、ゴシゴシと便器の隅々まで磨くそうです。意外にも、生徒たちは「トイレ掃除」を結構楽しそうに行い、トイレ掃除を通して色々なことを学んでいるそうです。

私は日本に留学してもう四年が経ちましたが、日本のトイレについては感心することばかりです。日本のどこへ行ってもトイレは綺麗で、便利な設備も色々設置されています。お年寄りには手すり、赤ちゃんにはベビーチェア、女性には化粧専用コーナー、子供には幼児用小便器と手洗器が用意してあります、若い母親にはおむつ交換台と授乳室、忙しいオフィスレディには洋服やストッキングの着替えボードも設置されているところもあります。

このようにトイレに様々な工夫ができるのは、日本人独特の繊細な気配りが基礎にあり、これは日本人の「おもてなしの心やサービス精神」にも通じるものがあるのではないかと思います。また、トイレを製造する人が、利用者のニーズに対してどんな小さなことでも一つ一つ丁寧に応える気持ちがあるからこそ、できることではないかと思います。

たかが、小さなトイレのことですが、その国のトイレが綺麗であり、衛生的で便利なトイレが公衆トイレまで普及しているということが、その国の政治の安定、生活の質や文化水準の高さを示すバロメーターになるのではないのでしょうか。また、トイレ環境を改善するためのハイテク技術があるかということにもつながります。その国のトイレを見ただけで、他の分野においても海外に進出するだけの潜在的なパワーがあるかどうかも分かるのではないのでしょうか。

安全で清潔な日本の生活文化水準の高さを世界に示すことのできる絶好の機会が2020年の東京オリンピックだと思っています。世界の人々に、日本の快適なトイレやお風呂などをいろいろ体験してもらい、自分たちの知らない世界があることを知ってもらおうチャンスです。

日本のトイレの気持ちのよさは世界一だと思います。この「トイレ文化」を活用し、日本の生活水準の高さや高度な技術力を世界中に紹介し、日本が住みやすく美しい国であることを世界中に伝えましょう。

私は、卒業後、中国に帰り貿易関係会社に勤務しますが、日本の「トイレ文化」の背景にある日本の素晴らしさを伝えていきたいと思っています。

「日本の綺麗なトイレには、日本を元気にする女神様が住んでいるのではないのでしょうか」